

刊夕日七月一

# 常磐毎日新聞

定価 一部全席一ケリ金五拾銭 郵税五拾銭  
 廣告料 五拾二ケリ金五拾銭 一行金五拾銭  
 日曜祭日の翌日休刊  
 発行所 常磐毎日新聞社  
 印刷所 常磐毎日新聞印刷株式会社

## 子の年に因んだ 童話二篇(二)

経葉 勇

『鼠は鼠』

(三)

『なか／＼この壁は丈夫だ  
 人間がこんなことをいひ  
 ながら通ると、壁は大得意  
 でした。』

さて或晩、やつぱり壁が  
 えらさうに立つてゐると、  
 ガリ／＼變な音がします。  
 何だらうと思つて見ると、  
 一匹の鼠が壁をかちつてゐ  
 るのです。

『これは驚いた、壁が一番  
 強いと思つたらそのかべを  
 鼠がかちつてゐる。すると  
 鼠が世界で一番えらいんだ  
 やつぱり僕も鼠になりた  
 した。』

どいつかと思ふと、そこ  
 にあつたかべがフイと消え  
 て一匹の小鼠になつてしま  
 ひました。  
 これからも小鼠は他のも  
 のになつて見たいと思つた  
 でせうか。

『笛吹き爺さん』

(二)

昔或る町にたくさんの鼠  
 がゐて、町の人たちは大變

困りました。十匹や百匹で  
 はありません。千匹や一萬  
 匹ではありません。數知れ  
 ないほど犬でも猫でもこれ  
 を退治することが出来ませ  
 でした。  
 『どうしたらよからうか』  
 『今に鼠のために町が滅ぼ  
 されてしまふ』  
 『何とかして退治したいも  
 のだ』

- 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
- 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
- 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
- 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

【朝】味噌汁・葱 小付  
 金山寺味噌  
 【晝】あんかけ・豆腐 お  
 ろし生姜 小皿 や  
 きのり 香の物  
 【晩】深川煮・蛤と葱味噌  
 煮 照りやき ぶり  
 大根おろし

或日町長さんが、町の主  
 な人たちを集めて相談して  
 ゐました。そのとき、部屋  
 の入口の戸をたたく音が聞  
 えしました。  
 『どなたですか、お入りな  
 さい』

町長さんがいひますと、  
 戸が開いて入つてきたのは  
 赤と黄色い着物をきた見な  
 れない一人の旅のお爺さん  
 でした。お爺さんの首には  
 一本の笛をぶら下げてゐま  
 す。

『お前さんは誰かな』  
 『私は笛吹き爺さんと呼ば  
 れます。』

『お前さんは誰かな』  
 『私は笛吹き爺さんと呼ば  
 れます。』

## 常磐文藝

友よ 勝村英子

日が登り  
 町がほの／＼明ける頃  
 學校通ひのあの角で  
 いつも待つてたあの友も  
 今は淋しく去つてつた  
 日が落ちて  
 たそがれ深く迫る頃  
 學校歸りのあの角で  
 いつも別れたあの友も  
 今は淋しく去つてつた

丘

たそがれの空は  
 だまつて暮れて行くよ  
 子供等よ 又丘に登らう  
 夕焼と明日の天気を見るた  
 めに  
 そして都の便りを聞く爲に  
 いつもの丘に登らう  
 子供等よ

### 時代の要求

皆様の足？  
 尼子タクシーへも豆タクが入  
 りました  
 御立關から立關へ 迅速簡便  
 是非御利用を

### 宮行

市 内 三〇錢  
 市 外 四割引  
 流線型セダン  
 大型貸切バス  
 宮行——直通は二丁目尼子自動車部よ  
 り發車いたします  
 平町二丁目  
 尼子自動車商會  
 電話六四〇番

### 特約販賣店募集

助川町 中村町 植田町 原ノ町  
 其他各地  
 一町一店(絶対遵守)  
 右開店御希望の方へ道具付にて  
 最も有利に御相談致します。

### 満洲パン

白土左行  
 満洲羊かん始めました。

### 外科

門 專 光 X  
 科 線  
 上田外科病院  
 平町 南町  
 電話 一二九番

### 宮温湯

お寒くなりましたして冷え性のお方はサザ  
 お困りでございませうが  
 アタタメクスリ  
 宮温湯を召し上るとキツト救は  
 れます

### 阿康薬局

お身体のお弱い御婦人  
 冷え性の御婦人  
 下腹や腰等引きつり痛む方  
 子宮のお悪い方  
 なが血白血でお困りの方  
 月經時に痛みを覚える方  
 子實のほしい方  
 是非御試し下さい  
 平町古鍛冶町一〇縣社の下  
 蝶印薬  
 電話 四四番  
 振替口座東京三〇六五番

### 冬のサロンの暖房設備が出来ました

食事 喫茶 酒場 を兼ねた  
 御家庭の延長として  
 是非御利用下さいませ

温かい ミルク(生乳)	十錢	
御飯物	リプトン紅茶	十錢
お菓 子		十五錢

平・田町 電三五二 男給の店 イワキサロン



密度有難う存じます  
 レストラン  
 平 曾 館  
 電 624

### 幽霊賀状が

### 平局に百餘通

配達不能で宙に迷ふ

既報四百萬からの年賀状が殺倒した平郵便局の端書整理箱には差出人も宛名人も書いてないので未だに配達出来ず処分を待つて居る幽霊端書が百餘通ある中には宛名を書かず表裏両面に祝賀文を書き込んだの等超越したものもあつて係員を苦笑させて居る

### 擔保の新米

### 倉庫に山積

### 品薄から高値

三月頃まで持續か

られて居る

### 更生報告

作成の指導

郡内の農家では平外二十ヶ所の農業倉庫に新米を擔保として金融を受ける者が多く平倉庫は既に五千俵の新米を抱へ郡下農倉にも約五萬俵が山積の結果新米出廻り期でありながら市場は品薄となり一俵十一圓二三三錢と云ふ高値を示して居るが倉庫米が市場に出る三月頃迄は高値を持續すると見

### 鰯の豊漁で

### 鹽の需要激増

水戸地方専賣局平出張所の舊臘中の鹽賣上高は四萬五千五百七拾四圓八十四錢で前年同期より三千七百七拾一圓八十八錢の増加を示したこれは江名、小名各漁村

の鰯豊漁により北海道、青森方面へ生鹽漬で送るのが多いためであると尚味噌醬油醸造用及び一般の漬物用は新春早々より多數需要されるものと見られてゐる

### 青果市場建設 平中

央青果商業組合は去る十月三日商工大臣の認可を受け理事長鈴木與市氏以下組合員四十二名が協力一致組合事業の目的に向つて突進中であつたが第一期事業として大町の一角に敷地二百八十坪の卸賣市場を建設昨六日より營業を開始した尙逐次組合員の預金並に資金貸付運搬及び保管等を行ふ筈である

### 未だ是れから

### 寒くなりま

寒くならず

昨年記録までには

昨日から愈よ小寒に入つたので平地方は昨朝零下五度八分の寒さに降り室内の水迄凍つたが今八日朝も零下三度六分で市民を顫ひ上らせた、神谷農事試験分場の調べに依ると昨年一月

### 草野縣議の養子

### 兇變に遭遇危篤

満洲で匪賊討伐中に

元本縣特高課勤務巡查部長伊藤長雄氏(草野三郎縣議養子)は昨年十一月滿洲國安東警察署に勤務中であつたが去る五日午後三時頃匪賊討伐中兇變に會ひ危篤の電報に接したので昨六日午前五時草野縣議は朝鮮經由で渡滿した

### 果樹栽培講演

農事試験分場は来る九日農事特別講習會を開き齊藤分場長が果樹栽培に就いて講習する

### 安齊外科擴張

平町仲田町安齊外科醫院にては今回産科婦人科に共濟病院婦人科主任として信望高か

### 販利組役員會

石城販賣利用組合は来る十日午後一時から組合樓上に役員會を開き十年度決算並に十

### 小麥の移出増加

高値に喜び自家用迄も

一年度借入高最高額決定を行ふ  
平米穀検査所が昨年度に取扱つた小麥の移出検査数は一萬一千四百三十五俵で前年度の七千八百四十二俵より三千五百九十三俵も増加して居る是れは小麥相場が九年度よりも一俵に付き二圓乃至二圓二十錢と云ふ高値を見せたので農家は取つて置きの自家用迄賣拂つた爲めで移出地は千葉、茨城兩縣下で處分された

### 平町人事

△新町二二當時青森縣上北郡三本木町大字三本木字小稻五五三田智大氏三女みちさん  
△研町四影山好雄氏(三六)西白河郡三神村大字三城目字上町六相樂ハナさん(三一)  
△草野村大字網谷字諏訪作一〇五渡邊壽氏(二九)南町七六小谷美三子さん(二五)  
△南町七當時上遠野村大字上遠野字本町一〇五小川ヤノさん(四八)

### 井坂醫院

平町 田町 電話五五九番

### 高久病院

院長 醫學士 高久 忠  
副院長 新潟醫學士 赤羽 清  
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄  
内科小兒科 外科花柳病科 耳鼻咽喉科 レントゲン科  
平町田町 電話五二三番

### ほねざき 桑原柔道整骨院

平町園下電話六七四

### 是非!

御融通には御用命下さい 萬事便利な御相談に應じます

### 三井質店

平・四電六〇番六

### 吉田眼科病院

平町・紺屋町 電話五〇七番 醫學士 吉田久雄

### 怖るべき交通禍!

## 今度は四倉町に

### 轢逃げ事件発生

#### ▽頭部に瀕死の重傷

綴街道の轢逃げ自動車事件発生翌日又々四倉町に同様事件が突發地方人心は極度の交通禍に怖れてゐる  
六日午後八時半頃四倉町宇新町地内國道を通行中の久之濱町大字立居住漁夫遠藤松吉(三七)は背より後久之濱方面から來たトラックに轢き倒され頭部に瀕死の重傷を負はされたが該トラックは逸早く逃走行方を晦ました

### 逃走自動車の

#### 確證を握つた?

### 目星つく

#### けふ平署頗る緊張

(昨報) 夜の綴街道に於ける自動車轢逃げ事件は瀕死の重傷者を傍に喚く泥酔漢一人あつたのみで逃走自動車を目撃者なく平署は昨日來管内平、湯本綴方面の自動車業者を召喚取調べ中見られる

であつたが本日に入つて俄然何等か確證を握つたものゝ如く某自動車業者を引續き安藤刑事部長が取調べてゐるが近くこの不埒な轢逃げ犯人は判明されるものと見られる

### 生れ歳も

### 知らぬ鮮人

#### 意外の大家か

六日午後小名濱町築港請願渡邊巡査は舉動不審の鮮人を逮捕したが所持せる自動車は江名濱方面より窃取し

て來たものと申立て、居り生れも知らず當時住所不定僅かに無職山内信治と日本名を名乗つてゐるが

### 勿來坑の

#### 火薬庫に放火

#### ダイナマ一萬本在中

#### 犯人嚴探中

昨日早朝勿來坑大日本炭礦火薬庫の扉附近に木つ葉と荷札に依つて放火せんとした形跡あるを同所通行人が發見届け出たが同火薬庫には約一萬本のダイナマイトが貯藏してあり萬一引火せる場合には大爆發して大事に至る處であつた何等か同炭礦に含むものか或は又不穩な行動計畫あるものと睨むた植田署は目下犯人嚴探中

### 不注意の

#### メロン賣り

#### けふ罰金に

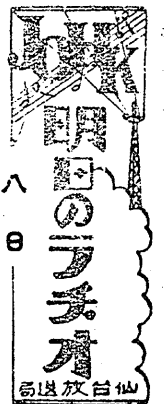
昨年の一丁目關影油店の火災原因は同家へメロンを賣りに來た下小川村大字關場字宿四八農松本百世が同店の地下タンクへガソリン注入中注意されたにも拘らず無意識でマッチの消えかけを捨てたのによるものと判明し平區小林判事係りで取調への結果全く右の過失と判明今日失火罪で略式罰

### 偽畫家の

#### 身柄送致

#### 素直に自白

既報稀代の偽畫家として本郡小名濱及び湯本地方で多額の金員詐欺を働へた玉齋こと新潟縣生れ前科三犯武



明日のラジオ  
天 今明も明日も北  
西の風晴曇半す

明日の部  
前七、三〇 御製講話「桃園天皇御製」辻善之助  
前九、〇〇 家庭メヌ  
前九、五〇 陸軍始觀兵式御模様：代々木練兵場中繼  
後〇、〇五 獨唱と管絃樂カルガカラスロワ大阪ラヂオオーケストラ：桃谷中繼  
後二、〇〇 婦人の時間「若い女性」吉岡彌生  
後四、二〇 關西相撲實況大阪偕行社横廣場中繼  
後六、〇〇 長唄「小鍛冶」

岡村てい子他  
後六、二五 農村經濟の成功談「村の負債整理」白石積太郎(廣島)  
後七、三〇 趣味講座「能樂の話」高田早苗  
後八、〇〇 義士輪讀會實況「距兒島平之町會文學會中繼  
後八、二五 ビアノ獨奏 拓植千代  
後八、五〇 小唄 田村よし彌(菅原たつ)  
後九、〇〇 連續講話「吉良の仁吉」神田伯山

### 不人情な

#### 亭主に説諭願

小名濱町船主岩佐五兵衛方漁夫相馬郡鹿島町宇南右田濱稻荷田マサル内縁の夫桑折民衛は昨年春家出以來送金せずマサルは眼疾で廢人

### カフエー荒しの賊

#### 強盗未遂一犯の強か者捕る

宮城縣名取郡關上町生れ當時住所不定強盗未遂前科一犯窃盜前科二犯菅井民治(三七)は舊臘中小名濱町下明神町藝妓置屋新米こと永山ジュン方に忍び入り座敷にあつたバスケットを屋外に盗み出し在中品數点を窃取した外同町カフエーハッピー浮世、大學新米菓子店から洋酒類數点を窃取したと發覺小名濱駐在所員に逮捕された

### 女給暴行

#### 懲役二年に

#### けふの公判

山形縣東村山郡生れ住居不定前科二犯須貝市三郎(三三)が廿日双葉郡長塚村大字長塚カフエースマランに雇はれ中同家の女給草野キミの寢室に忍入り同人の咽喉をしめあげ鐵拳で殴りつけ右前額部及び口唇に全治一週間の裂傷を負はし現金十九圓餘在中の財布を奪つて逃走した事件の公判は今日

### 平裁判たより

△石城郡錦村大字中田字安良町二六昭和人絹職工中村吉五郎(三〇)同佐藤吉太郎(三三)の兩名は去る十一月上旬頃同居人住宅に備付けある植田電力會社の引込線開閉器より無断で百ボルト五百ワットの電氣コンロコードを接続した個所より發火し同家を半焼し電氣事業法違反により略式罰金各四十圓△石城郡豊岡村大字豊岡字原町五七第五明神丸船長小松彦治は去る十一月廿九日宮城縣鹿郡鮎川村沖合で免許狀を所持せず機船底曳網漁業を行ひ漁業取締法違反で略式罰金卅圓

# 義経の死

（以上） 悟道軒圓玉（作） 尾至陽（畫）



## 一七、續部正の自殺

吉野政助に三島三郎は、小姓梅村金彌の泣き居るを見て

政「殿様にお目通りいたせばとてお言葉を取く事はならぬと、それは如何なる理由か、我々共無断にて當家を立去りしをお怒りなされたか、但しは御病氣か」  
金「殿様は先刻御自殺をなされました」  
二人はこれを聞いてアツと云つたが、暫く無言、稍あつて吉野政助はホツト吐息を洩らし

政「三島、殿は御生害なされし由、察するに安藤閣老とヒュースケンのために恥辱を受けられたためであらう、我々ども苦心してヒュースケンを討果したは御無念を散ずるため、たゞこの事を生前に申し上げぬは遺憾であれど、泉下にて殿これをお聞なされなばさぞかし御喜びあらせられる事と存ずる、さすれば御冥福ともなり申すよし、兎も角も御遺骸を拜しこの事を上申いたすであらう、梅村、貴公より奥様にこの儀御披露下れ」  
こゝで梅村は奥に入る、

やがて出てまゐつてこれへお通りなさいと二人を識部正の居間に案内した、亡骸には白布を打かけ香をくゆらし、又花を手向け、奥方は今年十一才になる子



息と共に悄然とそれに坐してゐる、政助に三郎は主人の遺骸を見て又新なる涙を流した、時に奥方は二人に向ひ  
奥「只今金彌より聞きましたが、其方共はヒュースケンを斬り居つたとのこと」

政「左様でございます、吾々共御當家を立ち退きましたはヒュースケンを斬つて殿の御無念を晴らすため、やうやく本日赤羽なる有馬邸門前において彼を討果し申したれど殿様御生前にこの儀を申し上げざるは残念至極」  
奥方はこれを聞いて涙をながしたが、續部正の遺骸にむかひ  
奥「あなた、只今吉野政助と三島三郎が戻りましたが、あなたの御恥辱を雪ぐためヒュースケンを討果しました」

たとのこと、何卒これにて成佛遊ばせ」  
と申したが、この時に息子又一は吉野政助と三島三郎の誠忠を賞しお父上この事を聞かれなばさぞかしお喜びなされたであらう、しかしその身は死するとも靈

魂は永くこの世に止まり居るとやら、お父上は其方共の忠節を賞し居られることと思ふ、といつたが、十一才の少年にしてはけなげな一言。  
吉野政助、三島三郎も死がいの側にて通夜を致したが、さてこの屋敷に永く居ることは出来ない、自分共には嫌疑がかつてゐる、また三島三郎はここへ参る時に木挽町一丁目の川岸にて手先に捕へられむとしたそは遁れたが三郎は紙入を落して居る、それが彼等の手に入れば加害者は織部正の家來といふことも判る判れば公儀の勢ひでこれへ手を入れるであらう、また米國の公使も加害者が判つたとあらば一日も早く其奴を捕へろと幕府に迫るであらう、これらを考へるとやう／＼としては居られぬ、それでこの事を奥方に申して翌日夜に入るを待つてひそかに屋敷に立ち退いた。

その時吉野政助が政「三島、ヒュースケンは斬つたもの、安藤閣老を助け置いては殿様の遺骸に思はれるだらう、殊に安藤侯は幕府の威力を示すために京都に手入れを致して諸卿方を押込め、また國事を憂ふる志士を捕へて獄に投じ或ひはこれを暗殺致す、且またこゝにもつとも惜むべきことは幕府の儒者をして容易ならぬ故事を調べ居ること、さすれば捨て置くことはなるまい、安藤侯を斬るは單り殿様の御無念

を晴すばかりではない。貴公はどう思ふ——かゝる不臣の者を助け置くことはなるまい」  
三「尤もだ、しかし我々二人にて安藤侯を斬ることはなるまい、同志を募らねばなるまい」  
政「それについては拙者に考へがある」と政助が云ひました。

# 宗正らひた

美味！ 芳醇！

山崎合名會社 電話一〇番

一冊の代金で 御希望通りな 五冊の雑誌が 自由に讀める 川崎文庫 電話六三〇番

## 諸橋科外醫院

(電。四六四) 平新川町二七

内臓外科 皮膚科。花柳病科 レントゲン科

醫學博士 諸橋鐵彌 醫學士 奥義弘

## 御會葬御禮

昭和十一年一月七日

嗣子 平町新川町 親戚總代 龍長 友入總代 佐愛松 藥長 龍長 藤澤 崎谷 口 藤澤 菊 秀 榮 三長三 吉 榮 平資郎 計雄 豐重

父藤吉儀永々病氣之處藥石効ナク 四日午前九時死去仕り候ニ付此段 御通知申上候

追テ葬送ノ儀ハ來ル十日午後一時自宅出 棺大寶寺ニ於テ佛式相營ミ申可候

昭和十一年一月六日

男 親戚 總代 友人 總代

小井 柏谷 久三 三三三三三 野上 原口 世井 井井井 伊 幸 佐 茂次 三 富 榮 治 作郎 克 德 吉 郎 郎 吉 一